

令和 1（2019）年さけます来遊状況（第 2 報：9/30 現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
北海道区水産研究所 さけます生産技術部

- 北海道の 9 月末時点での年齢別来遊数を推定すると、5 年魚（2014 年級）は前年を上回るが 4 年魚（2015 年級）は減少
- 北海道の日本海側（オホーツク海区及び日本海区）と太平洋側（根室～えりも以西海区）ともに、5 年魚は前年を上回っているものの、4 年魚は前年を下回る
- 北海道のサケの平均重量は 3.42kg で、近年では平成 25（2013）年に近い水準

・サケの年齢組成

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定途中経過をもとに、9 月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、5 年魚（2014 年級）が全体の 53%と最も多く、次に 4 年魚（2015 年級）が 40%を占めました。5 年魚は前年同期の 236%と前年を大きく上回っていますが、4 年魚は前年同期の 57%と下回っています。1994 年以降の平均との比較では、それぞれ 45%と 41%と 4、5 年魚ともに過去の平均よりも少ない状況です（図 1）。

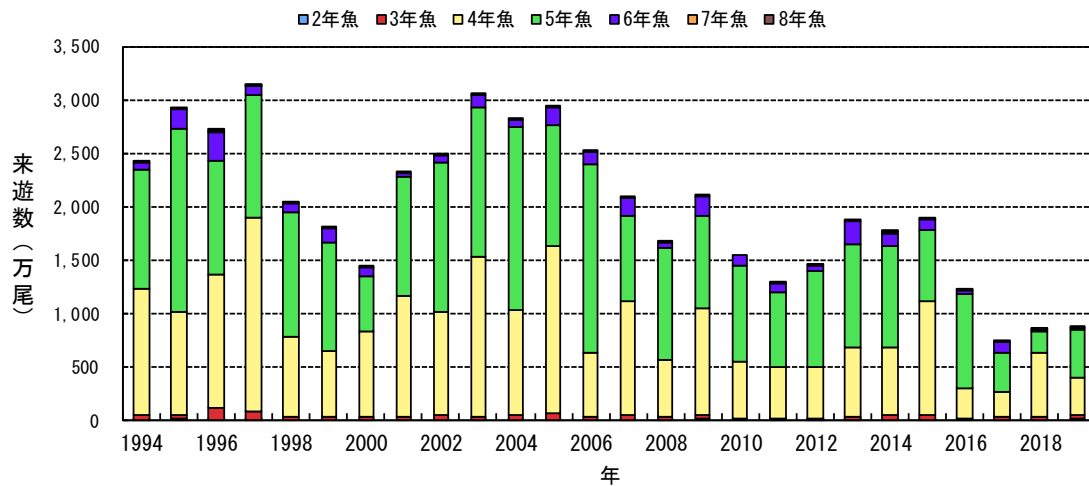


図 1. 9 月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2015年級は4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992年級以降の平均の43%の水準で、少ない方から3番目となっています。また5年魚である2014年級は、1992年級以降の平均の58%の水準で、少ない方から3番目となっています。（図2）。

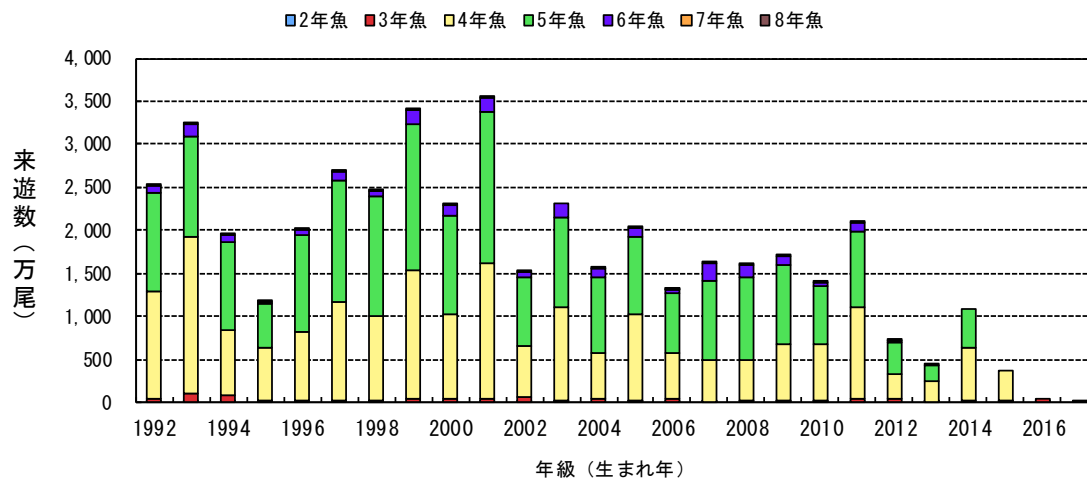


図2. 9月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道）。

地域別にみると、太平洋側（根室～えりも以西海区）では、5年魚の来遊数は前年同期の357%、1994年以降の平均の31%と前年を上回っていますが、4年魚は前年同期の48%、1994年以降の平均の26%となっています（図3）。日本海側（オホーツク海区及び日本海区）では、5年魚の来遊数は前年同期の201%、1994年以降の平均の59%と前年を上回っていますが、4年魚は前年同期の63%、1994年以降の平均の56%となっています（図4）。両地域とも5年魚は前年を上回っているものの、4年魚は前年を下回っています。

なお、サケの年齢組成は来遊時期の初めの頃には高齢魚（5年魚）の割合が高く、シーズンが進むにつれて3年魚や4年魚の割合が高くなる傾向があります。

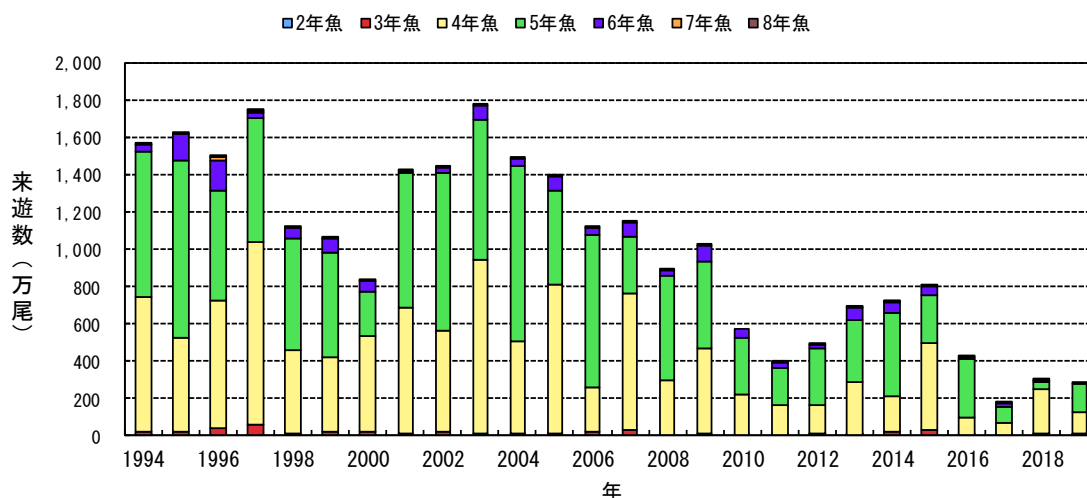


図3. 9月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）。

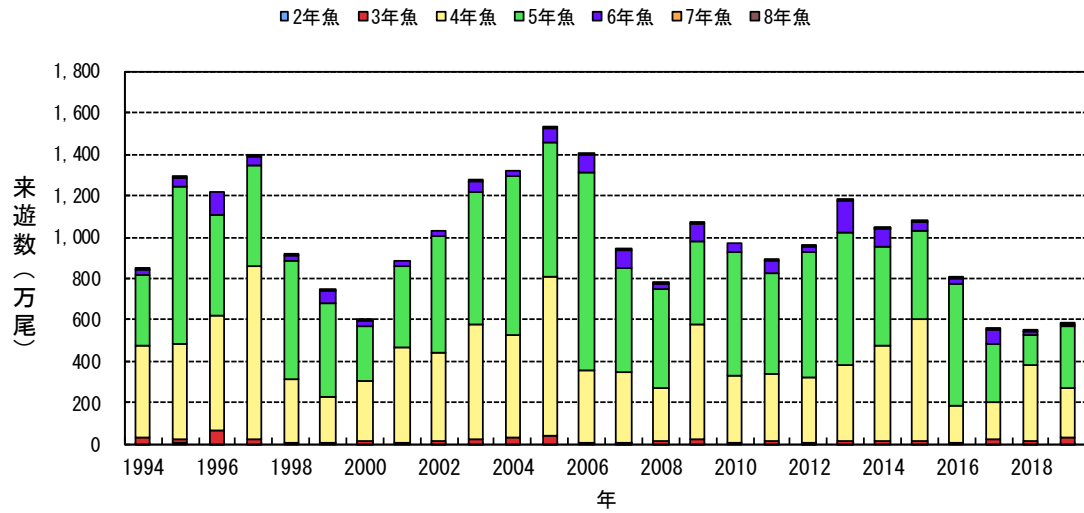


図4. 9月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における9月30日現在のサケ1尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は3.42kgであり、1989年以降で最も小さかった前年同期の113%に相当します（図5）。

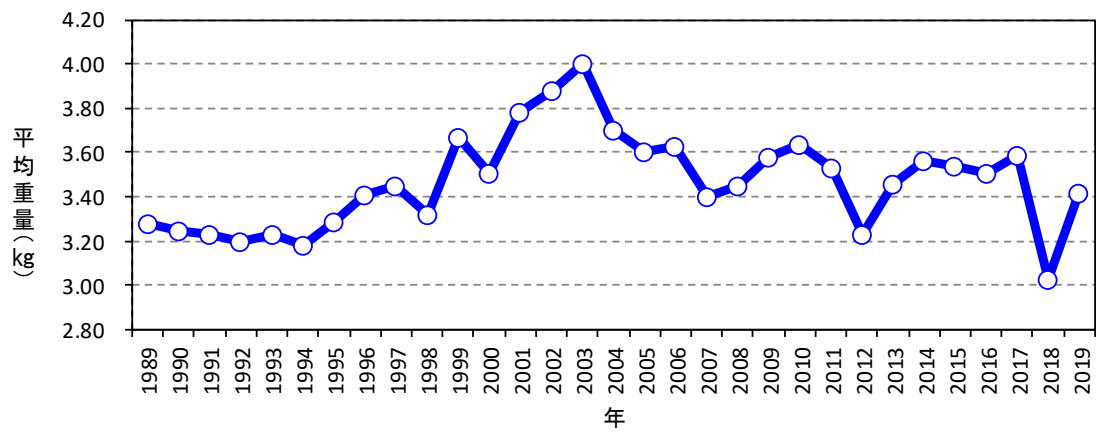


図5. 9月末時点のサケ平均重量（北海道）.